実践報告2024

地域デザイン演習Ⅱ（YC・MMC）

場所：川崎市子ども夢パーク（神奈川県川崎市高津区下作延５丁目３０－１）
担当教員：西野博之 非常勤講師（認定NPO法人フリースペースたまりば理事長）

〇目的
多様な他者との出会い、リアルな体験活動を行うことによって、困難な課題に向き合える実践力を育む。様々な背景を抱える子どもたちとの直接的な関わりを通じて、子どもの気持ちの受け止め方を学び、子どもが発する「試し行動」に、どのように向き合い、コミュニケーションを図っていけるようにするかを学ぶ。

とことん　あそぼうデイズ！

開催日時：2024年５月５日（日）
９：45～17：30
参加人数：13名（２・３年生）

〇当日の様子
川崎市子ども夢パークのGWのイベント「とことん　あそぼうデイズ！」の「あそぼうパン」企画に参加し、西野博之講師の指導のもと、子どもたちとの関わり方や、子どもたちが「やってみたい」ことに挑戦できる遊び場にするための運営方法について学びました。

〇学生の感想
私自身、小さい頃は習い事ばかりでほとんど遊んだことがなく、当時はそれでも充分だと思っていました。しかし今回の活動で、本当の遊びを感じられました。縛られることなく、存分に気になること、やりたいことをするのは、我儘ではなく、成長のために必要なことなのだと思いました。
（人間科学部2年　M.S）

夢パまつりの準備実習

開催日時：2024年7月14日（日）
９：30～17：30
参加人数：20名（２・３年生）

〇当日の様子
次の日に行われる「夢パまつり」のための前日準備を行いました。どのように準備をしたら安全に遊べるのか、円滑なイベント運営ができるのか、夢パークのスタッフの動きや言葉に注意しながら、パーク内を整備しました。

〇学生の感想
子どもならではの発想力、子どもが安全にのびのびと過ごすために大人ができること、リスクとハザードの違いを見分けることの難しさを感じた。
子どもの発想力を感じた場面は、看板に火山のイラスト描く作業の時である。子ども達と一緒に看板に火山のイラストを描いた時、大学生の私たちは、火山のイラストを調べながら失敗しないように恐る恐る描いていたが、一緒に描いていた子どもたちは、絵具を使ってのびのびと描いていた。子どもの頃は、自由に楽しめていたことに対し、大人になるにつれ、失敗してはいけないという気持ちが強くなることを実感した。（人間科学部3年　M.A）

こどもゆめ横丁実習

開催日時：2024年11月３日（日）10：00～18：00
11月４日（月）８：40～18：00
参加人数：３日2名/４日12名（２・３年生）

〇当日の様子
子どもたちが自分たちで出店内容を考え、お店を建て、商売までやってしまう「こどもゆめ横丁」にて実習を行いました。３日は本番のための準備、４日は受付、自転車置き場、ボランティアセンター、プレイパーク運営の３班に分かれ、スタッフの動きを学びました。休憩時間やフリータイムには、子どもたちのお店を回ったり、プレーパークで子どもたちと遊んだりしました。お店が閉店した15時からは、子どもたちの納税作業と解体作業を手伝いました。最後に、一日の振り返りをして解散しました。

〇学生の感想
２日間を振り返って、大人（スタッフ）の役割とは子どもたちとご家族が安心して過ごせ、やりたいことをのびのびとできる環境をつくることだと思いました。子どもたちが困ったときに頼れて、子どもたちが安全に遊べる環境を作り（釘や穴など）、ときには一緒に遊ぶ。大人とは、子どもたちに自分の考えを押し付け、思い通りにする道具ではなく、子どもたちの成長を見守り、一緒に成長していくことだと思います。あくまで子どもたち主動。子どもたちの興味関心をサポートすることが大切な大人の役割であると感じました。（経営学部２年　K.M）